

線形代数 I 演習

－ (1) 平面ベクトルの演算, 線形独立・線形従属 －

担当 : 佐藤 弘康

基本問題. 以下のことを確認せよ (定義を述べよ).

- (1) 「ベクトルの線形結合」とは何か.
- (2) 「 \mathbf{R}^2 がベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ で張られる」とはどういうことか.
- (3) 「 n 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ が線形独立である」とは?
- (4) 「 n 個のベクトル $\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_n$ が線形従属である」とは?
- (5) 「 \mathbf{R}^2 の基底」とは, どのようなベクトルのことか.

問題 1.1. 次のベクトルは線形従属か, 線形独立か調べよ.

- (1) $\begin{pmatrix} 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix}$ (2) $\begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ -4 \end{pmatrix}$ (3) $\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$
- (4) $\begin{pmatrix} 0 \\ 3 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix}$

問題 1.2. 平面ベクトルの組 $\begin{pmatrix} 2 \\ 4 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \end{pmatrix}$ は \mathbf{R}^2 の基底か? もし基底ならば, $\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ をそれらの線形結合で表せ.

問題 1.3. \mathbf{a}, \mathbf{b} を線形独立なベクトルとする. このとき,

- (1) \mathbf{a} と \mathbf{b} の線形結合で表されるベクトル $\mathbf{a} + 2\mathbf{b}$ と $3\mathbf{a} + 4\mathbf{b}$ は線形独立であることを示せ.
- (2) \mathbf{a} と \mathbf{b} の線形結合で表されるベクトル $-\mathbf{a} + 2\mathbf{b}$ と $2\mathbf{a} - 4\mathbf{b}$ は線形従属であることを示せ.

問題 1.4. 2つの平面ベクトル $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ に対し, 「 \mathbf{a}, \mathbf{b} が線形独立であること」と「 $a_1 b_2 - a_2 b_1 \neq 0$ 」が同値であることを証明せよ.

線形代数 I 演習

— (2) 平面ベクトルの幾何学的意味, 内積, 複素数と複素平面 —

担当: 佐藤 弘康

基本問題. 以下のことを確認せよ (定義を述べよ).

- (1) ベクトルの和, スカラー倍にはどのような幾何学的意味があるか?
- (2) 「平面ベクトルの内積」とは?

問題 2.1. 次のベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} に対し, ベクトルの長さ $\|\mathbf{u}\|, \|\mathbf{v}\|$ および内積 (\mathbf{u}, \mathbf{v}) を計算し, \mathbf{u}, \mathbf{v} のなす角を求めよ.

$$(1) \mathbf{u} = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \end{pmatrix} \quad (2) \mathbf{u} = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \end{pmatrix}$$

$$(3) \mathbf{u} = \begin{pmatrix} \cos \theta \\ \sin \theta \end{pmatrix}, \mathbf{v} = \begin{pmatrix} \cos \varphi \\ \sin \varphi \end{pmatrix}$$

問題 2.2. \mathbf{a}, \mathbf{b} を平面ベクトルとする. もし, $\|\mathbf{a}\| = \|\mathbf{b}\|$ ならば, $\mathbf{a} + \mathbf{b}$ と $\mathbf{a} - \mathbf{b}$ は直交することを示せ.

問題 2.3. A, B を平面内の点とし, それぞれの点の位置ベクトルを \mathbf{a}, \mathbf{b} とする (ただし, \mathbf{a}, \mathbf{b} は線形従属でないとする). このとき, 三角形 OAB の面積は

$$\frac{1}{2} \sqrt{\|\mathbf{a}\|^2 \|\mathbf{b}\|^2 - (\mathbf{a}, \mathbf{b})^2}$$

に等しいことを示せ.

内積の性質

平面ベクトルの内積が以下の性質を満たすことを示せ.

- (1) $(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = (\mathbf{b}, \mathbf{a})$.
- (2) $c \in \mathbf{R}$ に対して, $(c\mathbf{a}, \mathbf{b}) = c(\mathbf{a}, \mathbf{b})$. また, $\|c\mathbf{a}\| = |c| \cdot \|\mathbf{a}\|$.
- (3) $(\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}_2, \mathbf{b}) = (\mathbf{a}_1, \mathbf{b}) + (\mathbf{a}_2, \mathbf{b})$.
- (4) $\|\mathbf{a}\| \geq 0$. さらに等号が成り立つのは $\mathbf{a} = \mathbf{0}$ のときのみである.

基本問題. 以下のことを確認せよ (定義を述べよ).

- (1) 「複素平面」とは?
- (2) 「複素数の絶対値, 偏角」とは?
- (3) 複素数の和と積は, 複素平面において幾何学的にどのように解釈できるか.
- (4) 「共役複素数」とは?

問題 2.4. 次の複素数を $r(\cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta)$ の形^{*1}で表せ. ただし, r は正の実数とする.

- (1) $\sqrt{-1}$ (2) -5 (3) $\sqrt{3} + 3\sqrt{-1}$

問題 2.5. $z = a + \sqrt{-1}b$ (a, b は実数) に対して, z^4 が実数になる条件を求めよ.

問題 2.6. $z, w \in \mathbf{C}$ に対して, $\bar{z}w + z\bar{w} = 0$ と $\arg z - \arg w = \frac{\pi}{2} \pmod{2\pi}$ は同値であることを証明せよ.

問題 2.7. $(2 + \sqrt{-1})(3 + \sqrt{-1}) = 5(1 + \sqrt{-1})$ を確かめ, そのことを使って

$$\tan^{-1} \left(\frac{1}{2} \right) + \tan^{-1} \left(\frac{1}{3} \right) = \frac{\pi}{4}$$

を示せ (ただし, \tan^{-1} は $f(x) = \tan x$ の逆関数).

複素数の偏角の性質

複素数の偏角が以下の性質を満たすことを示せ.

- (1) $z \in \mathbf{C}, a \in \mathbf{R} (a \neq 0)$ に対して, $\arg(az) = \arg(z)$.
- (2) $z \in \mathbf{C}$ に対して, $\arg \bar{z} = -\arg z$.
- (3) $z, w \in \mathbf{C} (w \neq 0)$ に対して, $\arg \left(\frac{z}{w} \right) = \arg z - \arg w$.

^{*1} $z = r(\cos \theta + \sqrt{-1} \sin \theta)$ ($= re^{\sqrt{-1}\theta}$) を複素数 z の極表示という (教科書 p.12 参照).

問題 2.8. シュワルツの不等式 (教科書 p.9 例題 1.2 (1)) を証明したい. 以下の問いに答えよ.

- (1) 2 次方程式 $ax^2 + bx + c = 0$ ($a, b, c \in \mathbf{R}$) の根 (解) の種類と 2 次式の判別式の関係について簡単に説明せよ (復習せよ).

- (2) \mathbf{a}, \mathbf{b} を (平面) ベクトル, x をスカラーとする. $f(x) = \|x\mathbf{a} + \mathbf{b}\|^2$ とおくと,

$$f(x) = \|\mathbf{a}\|^2 x^2 + 2(\mathbf{a}, \mathbf{b})x + \|\mathbf{b}\|^2$$

となることを示せ (プリント p.2 の内積の性質を用いてよい). また, $f(x)$ の判別式を計算せよ.

- (3) $f(x)$ の定義から $f(x) \geq 0$ を満たすが, このとき, $f(x)$ の判別式はどのような式を満たすか?

線形代数 I 演習

- (3) 行列の演算 -

担当: 佐藤 弘康

基本問題.

(1) 次の行列

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 5 & 1 & 8 \\ -4 & 2 & -8 \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 \\ 4 & 1 & -1 \\ 0 & 2 & 7 \end{pmatrix}$$

に対し, AB および BA を計算せよ.

(2) 次の行列

$$A = \begin{pmatrix} 0 & -2 & -1 \\ 10 & 1 & -1 \\ 4 & 1 & 1 \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & 3 \\ 0 & 2 & 0 \end{pmatrix}, C = \begin{pmatrix} 1 & -3 & -2 \\ 0 & 2 & -1 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

に対して, $A+B$, AC , BC を計算せよ. また, $(A+B)C$, $AC+BC$ も計算せよ.

問題 3.1. 次の行列

$$I = \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{-1} \\ 0 & -\sqrt{-1} \end{pmatrix}, J = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}, K = \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{-1} \\ \sqrt{-1} & 0 \end{pmatrix}$$

に対して, $I^2, J^2, K^2, IJ, JK, KI$ を計算せよ.問題 3.2. 行列 $A = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ に対し, $AB = BA$ を満たす行列 B をすべて求めよ.問題 3.3. 次の行列 A に対し, $AX = O, YA = O$ を満たす行列 $X, Y \in M(2, \mathbf{R})$ を求めよ.

$$(1) A = \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ -6 & -2 \end{pmatrix} \quad (2) A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$$

問題 3.4. 次の条件を満たす行列 $A \in M(2, \mathbf{R})$ を求めよ.

- (1) $A^2 = O$.
- (2) $A^2 = E_2$.
- (3) 任意の行列 $B \in M(2, \mathbf{R})$ に対し, $AB = BA$.

問題 3.5. 次の行列 A に対して A^n を求めよ.

$$(1) A = \begin{pmatrix} \lambda & 1 \\ 0 & \lambda \end{pmatrix} \quad (2) A = \begin{pmatrix} \lambda & 1 & 0 \\ 0 & \lambda & 1 \\ 0 & 0 & \lambda \end{pmatrix}$$

計算問題の解

$$(1) AB = \begin{pmatrix} 14 & 2 & -7 \\ 14 & 22 & 70 \\ 0 & -18 & -70 \end{pmatrix}, BA = \begin{pmatrix} -5 & 13 & -18 \\ 13 & 11 & 12 \\ -18 & 16 & -40 \end{pmatrix}$$

$$(2) A+B = \begin{pmatrix} -1 & -1 & -2 \\ 12 & 2 & 2 \\ 4 & 3 & 1 \end{pmatrix}, AC = \begin{pmatrix} 0 & -4 & -1 \\ 10 & -28 & -24 \\ 4 & -10 & -6 \end{pmatrix}, BC = \begin{pmatrix} -1 & 5 & -2 \\ 2 & -4 & 4 \\ 0 & 4 & -2 \end{pmatrix},$$

$$(A+B)C = AC + BC = \begin{pmatrix} -1 & 1 & -3 \\ 12 & -32 & -20 \\ 4 & -6 & -8 \end{pmatrix}$$

□ n 項数ベクトル

問題 3.6. 次の 3 つのベクトル

$$\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ k \\ -2 \end{pmatrix}, \mathbf{c} = \begin{pmatrix} 3 \\ 3 \\ 1 \end{pmatrix}$$

について, 次の問いに答えよ.

- (1) $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が線形独立となるための実数 k の条件を求めよ.
- (2) $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が線形従属となるための実数 k の条件を求めよ.

線形代数 I 演習

— (4) 転置行列, 特殊な行列 —

担当: 佐藤 弘康

基本問題 以下のことを確認せよ (定義を述べよ).

- (1) 行列 A の転置行列 tA とはどのような行列か.
- (2) 対称行列, 交代行列 (歪対称行列) とはどのような行列か.
- (3) 対角行列, スカラー行列とはどのような行列か.
- (4) 上三角行列, 下三角行列とはどのような行列か.

問題 4.1. 次の行列を対称行列と交代行列の和で表せ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 3 & -1 \\ 5 & 1 & 8 \\ -4 & 2 & -8 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 \\ 4 & 1 & -1 \\ 0 & 2 & 7 \end{pmatrix}$$

問題 4.2. 任意の正方行列 A に対して, ${}^tA \cdot A$ は対称行列になることを証明せよ.

問題 4.3. $A, B \in M(n, \mathbf{R})$ が上三角行列ならば, $A + B$ および AB も上三角行列であることを示せ.

問題 4.4. $A, B \in M(n, \mathbf{R})$ を対称行列とすると, 次の 2 つの条件が同値であることを証明せよ.

- (i) AB が対称行列である.
- (ii) A と B は可換. つまり $AB = BA$ が成り立つ.

定義 4.1. n 次正方行列 $A = (a_{ij})$ に対して, その対角成分の和を行列 A のトレースといい, $\text{tr } A$ で表す (トレースの性質については教科書 p.33 問題 11 参照).

$$\text{tr}(A) = \sum_{i=1}^n a_{ii}$$

問題 4.5. $A \in M(n, \mathbf{R})$ に対し, 次の 2 つの条件が同値であることを証明せよ.

- (i) 任意の交代行列 $B \in M(n, \mathbf{R})$ に対して, $\text{tr}(AB) = 0$.
- (ii) A は対称行列.

線形代数 I 演習

- (5) 行列のブロック分割 -

担当: 佐藤 弘康

問題 5.1. 次の行列 A, B を適当にブロック分割して, AB を計算せよ.

$$(1) A = \begin{pmatrix} 2 & 2 & 0 \\ 1 & 3 & -4 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$(2) A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 & 0 \\ 3 & 1 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 3 & 1 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} -1 & 2 & 2 & -4 \\ 3 & -1 & -6 & 2 \\ 0 & 0 & 1 & -2 \\ 0 & 0 & -3 & 1 \end{pmatrix}$$

問題 5.2. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 2 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 2 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 3 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 3 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

に対して, $2A^3 - 3A^2$ を計算せよ.

定義 5.1. 正方行列 A が冪零 (べきれい) 行列であるとは, $A^k = O$ となる自然数 k が存在することである.

問題 5.3. 対角成分がすべて 0 の上三角行列

$$N = \begin{pmatrix} 0 & * & * & \cdots & * \\ 0 & 0 & * & \cdots & * \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & * \\ \vdots & \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ 0 & 0 & 0 & \cdots & 0 \end{pmatrix}$$

は冪零行列であることを示せ.

線形代数 I 演習

－ (6) 行列の基本変形 －

担当: 佐藤 弘康

基本問題. 以下のことを確認せよ (定義を述べよ).

- (1) 基本行列 $P_{ij}, E_{ij}(c), E_i(c)$ の定義を確認せよ.
- (2) 行列 A に基本行列を左からかけることにより, A はどのように変化 (変形) するか.
- (3) 基本行列 $P_{ij}, E_{ij}(c), E_i(c)$ の逆行列を求めよ.
- (4) 階段行列とはどのような行列か説明せよ.
- (5) 簡約階段行列とはどのような行列か説明せよ.

例題 6.1. 行列

$$\begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 & -2 \\ 1 & -1 & 1 & -1 \\ 3 & -2 & 2 & 1 \end{pmatrix}$$

を行基本変形により, 簡約階段行列の形に変形せよ.

解.

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} 2 & 1 & 3 & -2 \\ 1 & -1 & 1 & -1 \\ 3 & -2 & 2 & 1 \end{pmatrix} &\xrightarrow{P_{12} \times} \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 & -1 \\ 2 & 1 & 3 & -2 \\ 3 & -2 & 2 & 1 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_{21}(-2) \times} \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 & -1 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \\ 3 & -2 & 2 & 1 \end{pmatrix} \\ &\xrightarrow{E_{31}(-3) \times} \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 & -1 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 4 \end{pmatrix} \xrightarrow{P_{23} \times} \begin{pmatrix} 1 & -1 & 1 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 4 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \end{pmatrix} \\ &\xrightarrow{E_{12}(1) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & -1 & 4 \\ 0 & 3 & 1 & 0 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_{32}(-3) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & -1 & 4 \\ 0 & 0 & 4 & -12 \end{pmatrix} \\ &\xrightarrow{E_3(1/4) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & -1 & 4 \\ 0 & 0 & 1 & -3 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_{23}(1) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 3 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & -3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

問題 6.1. 次の行列を行基本変形により簡約階段行列の形に変形せよ.

$$\begin{aligned}
 (1) & \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 4 & 3 & 4 \\ 0 & 1 & 2 \end{pmatrix} & (2) & \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 5 & 6 & 7 \\ 3 & 4 & 5 \end{pmatrix} & (3) & \begin{pmatrix} 1 & 2 & 1 & -2 \\ -1 & 1 & 2 & 0 \\ 3 & -1 & 0 & 1 \end{pmatrix} \\
 (4) & \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 & 1 \\ 2 & 0 & -3 & 5 \\ 0 & 1 & 4 & -1 \\ 1 & 0 & -2 & 7 \end{pmatrix} & (5) \text{ 宿題 : } & \begin{pmatrix} 1 & -2 & -3 & 1 & 3 \\ 2 & 1 & -1 & 0 & 1 \\ -1 & -3 & -2 & 1 & 2 \\ 4 & 7 & 3 & -2 & -3 \end{pmatrix}
 \end{aligned}$$

例題 6.2. 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}$ を基本行列の積で表せ.

解. 行基本変形により, 行列 A は

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_{21}(-3) \times} \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & -2 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_{12}(1) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -2 \end{pmatrix} \xrightarrow{E_2(-\frac{1}{2}) \times} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

となる. これから

$$E_2\left(-\frac{1}{2}\right) \cdot E_{12}(1) \cdot E_{21}(-3) \cdot A = E_2 \quad (6.1)$$

が成り立つことがわかる. したがって,

$$\begin{aligned}
 A &= E_{21}(-3)^{-1} \cdot E_{12}(1)^{-1} \cdot E_2\left(-\frac{1}{2}\right)^{-1} \\
 &= E_{21}(3) \cdot E_{12}(-1) \cdot E_2(-2) \\
 &= \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 3 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -2 \end{pmatrix}.
 \end{aligned}$$

また, (??) 式より, $A^{-1} = E_2\left(-\frac{1}{2}\right) \cdot E_{12}(1) \cdot E_{21}(-3)$ となることがわかる.

問題 6.2. 次の行列を基本行列の積で表せ.

$$(1) \begin{pmatrix} 3 & 1 \\ 2 & -3 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 3 & 4 & 0 \\ 1 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 2 \end{pmatrix}$$

線形代数 I 演習

— (7) 行基本変形の応用 (逆行列, 連立 1 次方程式) —

担当: 佐藤 弘康

□ 逆行列の計算

例題 7.1. 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & -1 & -1 \\ 4 & 3 & 4 \\ 0 & 1 & 2 \end{pmatrix}$ の逆行列を求めよ.

解. n 次正則行列 A が行基本変形により単位行列 E_n に変形できたとしよう. つまり,

$$M_1 M_2 \cdots M_k A = E_n \quad (7.1)$$

となるような適当な基本行列 M_1, \dots, M_k が存在するとする. 各 M_i に対し, その行列 M_i^{-1} が存在するので, (7.1) の両辺に左から, M_1^{-1} から M_k^{-1} を順番にかけることにより $A = M_k^{-1} M_{k-1}^{-1} \cdots M_1^{-1}$ を得る. つまり, $A^{-1} = M_1 M_2 \cdots M_k$ が成り立つ.

そこで, $n \times 2n$ 行列 $\begin{pmatrix} A & E_n \end{pmatrix}$ に (7.1) と同じ行基本変形を施すと

$$\begin{pmatrix} A & E_n \end{pmatrix} \xrightarrow{M_1 M_2 \cdots M_k \times} \begin{pmatrix} M_1 M_2 \cdots M_k A & M_1 M_2 \cdots M_k \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E_n & A^{-1} \end{pmatrix}$$

となる.

以上のことから, $\begin{pmatrix} A & E_n \end{pmatrix}$ を行基本変形により $\begin{pmatrix} E_n & P \end{pmatrix}$ の形に変形したとき, P が A の逆行列 A^{-1} である (教科書 p.41).

$$\begin{aligned} & \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & -1 & -1 & 1 & 0 & 0 \\ 4 & 3 & 4 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right) \xrightarrow{E_{21}(-4) \times} \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & -1 & -1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 7 & 8 & -4 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right) \\ & \xrightarrow{E_{13}(1)E_{23}(-7) \times} \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & -6 & -4 & 1 & -7 \\ 0 & 1 & 2 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right) \xrightarrow{E_2(-\frac{1}{6}) \times} \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & \frac{2}{3} & -\frac{1}{6} & \frac{7}{6} \\ 0 & 1 & 2 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right) \\ & \xrightarrow{E_{12}(-1)E_{32}(-2) \times} \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & \frac{1}{3} & \frac{1}{6} & -\frac{1}{6} \\ 0 & 0 & 1 & \frac{2}{3} & -\frac{1}{6} & \frac{7}{6} \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{4}{3} & \frac{1}{3} & -\frac{4}{3} \end{array} \right) \xrightarrow{P_{23} \times} \left(\begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & \frac{1}{3} & \frac{1}{6} & -\frac{1}{6} \\ 0 & 1 & 0 & -\frac{4}{3} & \frac{1}{3} & -\frac{4}{3} \\ 0 & 0 & 1 & \frac{2}{3} & -\frac{1}{6} & \frac{7}{6} \end{array} \right). \end{aligned}$$

したがって,

$$A^{-1} = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} & \frac{1}{6} & -\frac{1}{6} \\ -\frac{4}{3} & \frac{1}{3} & -\frac{4}{3} \\ \frac{2}{3} & -\frac{1}{6} & \frac{7}{6} \end{pmatrix}.$$

問題 7.1. 次の行列の逆行列を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 2 & -2 \\ -1 & 3 & 0 \\ 0 & -2 & 1 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & -1 & 1 \\ 1 & 0 & -2 \end{pmatrix} \quad (3) \begin{pmatrix} 1 & -1 & 4 \\ 0 & 2 & -2 \\ 0 & 0 & 3 \end{pmatrix}$$

問題 7.2. 次の行列の逆行列を求めよ.

$$(1) \begin{pmatrix} -abc & bc & -c & 1 \\ ab & -b & 1 & 0 \\ -a & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 1 & -a & a^2 & -a^3 \\ 0 & 1 & -2a & 3a^2 \\ 0 & 0 & 1 & -3a \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

問題 7.3. 行列

$$A = \begin{pmatrix} -1 & k & 1 \\ 2 & -2 & 4 \\ -2 & 1 & -1 \end{pmatrix}$$

が正則行列になるための k の条件を求めよ. また, そのときの A の逆行列を求めよ.

問題 7.4. 行列

$$A = \begin{pmatrix} 9 & 26 & -20 \\ 2 & 6 & -4 \\ 6 & 18 & -13 \end{pmatrix}, \quad P = \begin{pmatrix} -1 & -2 & 2 \\ 2 & 5 & -4 \\ -1 & -4 & 3 \end{pmatrix}$$

に対して, PAP^{-1} を計算せよ. また, A^n (n は自然数) を求めよ.

□ 連立 1 次方程式の解法

例題 7.2. 連立 1 次方程式

$$\begin{cases} 3x - y + 2z = -4 \\ -x - y + 3z = 5 \\ -2x + y = 4 \end{cases} \quad (7.2)$$

の解を求めよ.

解. $A = \begin{pmatrix} 3 & -1 & 2 \\ -1 & -1 & 3 \\ -2 & 1 & 0 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} -4 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とおくと, 連立一次方程式 (7.2) は

$$A\mathbf{x} = \mathbf{b}$$

と表すことができる (行列表示). ここで, 行列 $\left(A \quad \mathbf{b} \right)$ は

$$\begin{aligned} \left(\begin{array}{ccc|c} 3 & -1 & 2 & -4 \\ -1 & -1 & 3 & 5 \\ -2 & 1 & 0 & 4 \end{array} \right) &\xrightarrow{E_1(-1)P_{12}E_{12}(3)E_{32}(-2)\times} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 1 & -3 & -4 \\ 0 & -4 & 11 & 11 \\ 0 & 3 & -6 & -6 \end{array} \right) \\ &\xrightarrow{E_2(\frac{1}{3})E_{13}(-1)E_{23}(4)E_3(\frac{1}{3})\times} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 0 & -1 & -3 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & -2 & -2 \end{array} \right) \\ &\xrightarrow{P_{23}E_{13}(1)E_{32}(2)\times} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 0 & 0 & -2 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{array} \right) \end{aligned}$$

と変形できる. これより, (7.2) の解が $x = -2, y = 0, z = 1$ であることがわかる.

(別解) 行列 A の逆行列が存在し, $A^{-1} = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} & -\frac{2}{9} & \frac{1}{9} \\ \frac{2}{3} & -\frac{4}{9} & \frac{11}{9} \\ \frac{1}{3} & \frac{1}{9} & \frac{4}{9} \end{pmatrix}$ であるから,

$$\mathbf{x} = A^{-1}(A\mathbf{x}) = A^{-1} \cdot \mathbf{b} = \begin{pmatrix} \frac{1}{3} & -\frac{2}{9} & \frac{1}{9} \\ \frac{2}{3} & -\frac{4}{9} & \frac{11}{9} \\ \frac{1}{3} & \frac{1}{9} & \frac{4}{9} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -4 \\ 5 \\ 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}.$$

例題 7.3. 連立 1 次方程式

$$\begin{cases} x + 2y - 4z = 2 \\ 2x + 3y + 7z = 1 \\ 3x + 5y + 3z = 3 \end{cases} \quad (7.3)$$

の解を求めよ.

解. $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -4 \\ 2 & 3 & 7 \\ 3 & 5 & 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}$ とおくと, 連立一次方程式 (7.3) は

$$A\mathbf{x} = \mathbf{b}$$

と行列表示することができる. ここで, 行列 $\left(A \quad \mathbf{b} \right)$ は

$$\begin{aligned} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 2 & -4 & 2 \\ 2 & 3 & 7 & 1 \\ 3 & 5 & 3 & 3 \end{array} \right) &\xrightarrow{E_{21}(-2)E_{31}(-3)\times} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 2 & -4 & 2 \\ 0 & -1 & 15 & -3 \\ 0 & -1 & 15 & -3 \end{array} \right) \\ &\xrightarrow{E_2(-1)E_{12}(2)E_{32}(-1)\times} \left(\begin{array}{ccc|c} 1 & 0 & 26 & -4 \\ 0 & 1 & -15 & 3 \\ 0 & 0 & 0 & 0 \end{array} \right) \end{aligned}$$

と簡約階段行列に変形できる. これは (7.3) が方程式

$$\begin{cases} x + 26z = -4 \\ y - 15z = 3 \end{cases} \quad (7.4)$$

に簡約化できることを意味する. つまり, (7.3) の解 (全体の集合) と (7.4) の解 (全体の集合) は等しい. $z = k$ とおくと $x = -4 - 26k$, $y = 3 + 15k$, つまり方程式 (7.3) の解は

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -4 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix} + k \begin{pmatrix} -26 \\ 15 \\ 1 \end{pmatrix} \quad (\text{ただし } k \in \mathbf{R})$$

である.

問題 7.5. 次の方程式が解をもつかどうか調べ, 解が存在するなら解を求めよ.

$$(1) \begin{cases} 2x + 3y + z = 1 \\ -3x + 2y + 2z = -1 \\ 5x + y - 3z = -2 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x + y - 3z - 4w = -6 \\ 2x + y + 5z + w = -6 \\ 2x + 2y + 2z - 3w = -10 \\ 3x + 6y - 2z + w = 4 \end{cases}$$

$$(3) \begin{cases} x + 2y + 3z = 0 \\ 2x + y + 3z = 4 \\ 3x - 2y + z = 1 \end{cases} \quad (4) \begin{cases} x + 2y + 3z + 4w = 0 \\ 5x + 6y + 7z + 8w = 0 \\ 9x + 10y + 11z + 12w = 0 \\ 13x + 14y + 15z + 16w = 0 \end{cases}$$

$$(5) \begin{cases} x - 2y - 3z + w = 3 \\ 2x + y - z = 1 \\ -x - 3y - 2z + w = 2 \\ 4x + 7y + 3z - 2w = -3 \end{cases}$$

問題 7.6. 次の方程式が解をもつための条件と, そのときの解を求めよ.

$$(1) \begin{cases} x + 3y - 2z = 2 \\ 2x + 7y - 4z = 3 \\ 3x + 7y - 6z = a \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x + z - w = a \\ -x + y - z + 2w = b \\ -3x + 2y - 3z + 5w = c \end{cases}$$

$$(3) \begin{cases} 3x - 4y + 10z = 1 \\ 3x - 2y - z = a \\ 5x - 4y + 2z = b \end{cases} \quad (4) \begin{cases} ax - by - z = 0 \\ x + y - az = 0 \\ x + y - z = 0 \end{cases}$$

問題 7.7. 次のことを証明せよ.

- (1) \mathbf{u}, \mathbf{v} が斉次連立 1 次方程式 $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解ならば, $\mathbf{u} + \mathbf{v}$, $c\mathbf{v}(c \in \mathbf{R})$ も $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解であることを示せ.
- (2) \mathbf{v} が $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解, \mathbf{u} が $A\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の解ならば, $\mathbf{u} + \mathbf{v}$ は $A\mathbf{x} = \mathbf{b}$ の解であることを示せ.

基本問題. 以下のことを確認せよ.

- (1) 斉次連立 1 次方程式の自明解, 非自明解 (自明でない解) とは何か説明せよ.
- (2) 斉次連立 1 次方程式の基本解とは何か説明せよ.
- (3) 連立 1 次方程式の解の自由度とは何か説明せよ.

問題 7.8. 次の方程式が自明でない解をもつための条件を求めよ.

$$(1) \begin{cases} x + y + az = 0 \\ x + ay + z = 0 \\ ax + y + z = 0 \end{cases} \quad (2) \begin{cases} x + y + z = 0 \\ ax + by + cz = 0 \\ a^2x + b^2y + c^2z = 0 \end{cases}$$

問題 7.9. 問題 7.5 の連立方程式の階の自由度をそれぞれ求めよ.

問題 7.10. 行列 $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 & -2 \\ -1 & 4 & -2 \\ -1 & 1 & 1 \end{pmatrix}$ に対して, 次の問に答えよ.

- (1) $k = 1, 2, 3$ とするとき, 各 k に対して方程式 $A\mathbf{x} = k\mathbf{x}$ の自明でない解 \mathbf{v}_k を一つ求めよ.
- (2) (1) で求めたベクトル \mathbf{v}_k を並べてできる 3 次正方行列 $P = \begin{pmatrix} \mathbf{v}_1 & \mathbf{v}_2 & \mathbf{v}_3 \end{pmatrix}$ に対して $P^{-1}AP$ を求めよ.